

## 「雅楽の特徴を感じ取り、そのよさや魅力を味わって聴こう」

## 1 題材について

## (1) 題材観

本題材は、B鑑賞(1)の指導事項ア(ア)、イ(ウ)を踏まえ、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことをねらいとして設定した。

教材としては、雅楽「越天楽」を選択する。雅楽は、6～8世紀に中国をはじめアジア各地から伝えられたさまざまな音楽が、古来、日本で行われてきた歌舞と結び付き形づくられた日本独自の音楽であり、我が国の伝統音楽の中でも、今なお神社仏閣や式場などで耳にする機会のある音楽である。独特な音色の重なりや、指揮者を有しない演奏形態などから生まれる拍感特徴的であり、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を、音色、リズム、旋律、テクスチャとすることで、我が国の伝統音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる教材であると考え。また、用語としては拍、間、序破急を扱うこととする。

## (2) 生徒観

本学級の生徒は、我が国の伝統音楽について、第1学年時に題材「日本の民謡のよさを味わって鑑賞しよう」を学習している。

本題材を学習するにあたり、本学級の生徒に質問紙調査を行った。調査の結果は、次のとおりである。

質問紙調査の内容	内訳
①「日本の伝統的な音楽」と聴いてイメージすることは何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和太鼓、尺八、渋い音色など楽器や音色に関する回答 69.2%</li> <li>・落ち着いている、静かなど曲想に関する回答 19.3%</li> <li>・その他（関連する文化などに関する回答） 11.5%</li> </ul>
②我が国や郷土の伝統音楽のよさについて語れますか。	62.5%

①からは、我が国の伝統音楽を聴く際、約7割の生徒が「音色」を思考・判断のよりどころとしていることがうかがえる。また、我が国の伝統音楽の特徴として「落ち着いている」「静か」など、穏やかな曲想を挙げた生徒が約2割いた。

②からは、我が国や郷土の伝統音楽のよさを認識していると考えている生徒が約6割いることが分かる。しかし、我が国や郷土の伝統音楽のよさをどのように捉えているかについては把握できなかった。

## (3) 指導観

生徒観を踏まえ、次のように指導を工夫する。

- ・「音色」を思考・判断のよりどころとしている生徒が多いことから、第1時には音色や楽器に着目しやすい場面を設定し、知覚と感受の関わりについて考えさせることで、題材に対する興味や関心を高められるようにする。
- ・笙のある演奏とない演奏、雅楽の楽器による演奏とオーケストラの楽器による演奏など、楽器の「音色」に着目しやすい比較聴取の場面を設定することで、音色の重なり方や楽器の種類が生み出す「テクスチャ」の違いに気付かせ、知覚と感受の関わりについて考えやすくする。
- ・塩梅が生み出す「旋律」の特徴に気付かせやすくするため、第2時には口唱歌を体験させる。その際、興味や関心をもって学習活動に取り組めるように、伝言ゲームの要素を取り入れる。
- ・雅楽特有の「リズム」に着目させるため、第3時には雅楽「越天楽」とインドネシアのガムランとの比較聴取や、打ちものの模擬演奏を取り入れる。
- ・音楽を聴き深めさせられるように、題材を貫く問いを「『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう？」と設定し、音色、リズム、旋律、テクスチャを思考・判断のよりどころとさせながら他者と対話的に学ぶ活動を全ての時間に取り入れる。

2 題材の目標

- 雅楽「越天楽」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識及び技能)
- 音色、リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- 雅楽「越天楽」の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、我が国の音楽文化に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> 雅楽「越天楽」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。	<b>思</b> 音色、リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	<b>態</b> 雅楽「越天楽」の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 題材の指導計画 (本時 2 / 3 時間)

時	学 習 内 容	知・技	思	態
		( ) 内は評価方法		
1	<p><b>課題の設定</b></p> <p>【個人→全体】</p> <p>○雅楽「越天楽」の音源(冒頭8小節)を聴き、「どこの国の音楽か」「なぜそう思ったか」について考える。</p> <p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本っぽい。</li> <li>・日本とかアジアだと思う。和楽器の音がするから。</li> <li>・国は分からないけど遅いから昔っぽい。</li> </ul>			↓
	<p>・1300年前から今に伝わる雅楽という音楽であることを知る。</p> <p>○「日本っぽい音楽ってどんな音楽なんだろう？」という課題を設定する。</p> <p><b>情報の収集</b> ⇨ <b>整理・分析</b></p> <p>【全体】</p> <p>○1300年前に生まれた音楽であるのに、なぜ日本の音楽だと感じられたのか、雅楽の「音色」に着目し、気付きや感想を共有しながら「越天楽」の音楽に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音源を聴きながら、聴こえてきた音を擬音語としてメンチメーター(リアルタイムで投票結果などを確認できるサービス)に投稿する。(例: トントントトト、ピー、ヒョエー)</li> <li>・擬音語を共有した後、その擬音語がどの音色を表しているのか考え、音楽のタイミングに合わせて挙手したり、「どのように演奏しているか」について考えたりしながら音源を聴く。</li> </ul> <p>【グループ→全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の音色やそれぞれの特徴について、知覚したことと感受したことを共有し、それらの関わりについて考える。</li> </ul> <p>○雅楽の「テクスチュア」に着目し、気付きや感想を共有しながら「越天楽」の音楽に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「笙」の音がある演奏と「笙」の音がない演奏を比較聴取し、「笙」が入る</li> </ul>	↓	↓	↓

	<p>ことでどのような味わいが生じているか、知覚したことと感受したことを共有し、それらの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーケストラ版と比較聴取し、感じ方がどのように異なるかについて共有する。</li> </ul> <p>○今日の学習を振り返りながら、課題「日本っぽい音楽ってどんな音楽なんだろう？」についてグループで話し合った後、雅楽「越天楽」の音楽を聴く。</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>【個人】</p> <p>○振り返りを踏まえ、課題について考えたことを書く。</p> <p>【生徒の記述例】</p> <p>笙がない演奏の方がシンプルで好きだったけど、笙が入った演奏の方は和音が鳴っているから空間の広がりのようなものを感じて、神秘的な神社の空気感に共通するものがあると思った。いろいろな楽器を重ねるのはオーケストラも同じだけど、いろいろな楽器が独特の揺らぎをもって重なって不安定な感じを出すのが日本っぽさなのかなと思った。 (下線は、知覚したことと感受したことに付している。以下同じ。)</p>			
<p>2 本時</p>	<p><b>課題の設定</b></p> <p>【全体】</p> <p>○雅楽「越天楽」の冒頭を聴き、「1300年も前からどうやって音楽を伝えてきたか」について考える。</p> <p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き残したと思う。</li> <li>・口で伝えたと思う。</li> <li>・一子相伝で引き継がれてきた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜は覚え書き程度の役割しかもたず、口唱歌が伝承の大きな役割を担っていたことを知る。</li> </ul> <p>○「1300年もの間、音楽を口唱歌で正確に伝えることは可能なのだろうか」という課題を設定する。</p> <p><b>情報の収集</b></p> <p>【グループ】</p> <p>○口唱歌を体験し、箏の旋律の特徴に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて聴く箏の旋律を、自分たちの考えた口唱歌でグループの最後の人まで伝えられるか試す。</li> <li>・音源や実際に使用されている口唱歌を聴き、自分たちの考えた口唱歌と比較した感想を共有する。</li> </ul> <p><b>整理・分析</b></p> <p>【グループ→全体】</p> <p>○雅楽「越天楽」の「旋律」、「リズム（間）」が生み出す特徴を知覚・感受し、その関わりについて考えるとともに、雅楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に使用されている口唱歌を体験し、自分たちの考えた口唱歌とどのような違いがあるかについて考え、共有する。</li> </ul> <p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが考えた口唱歌と最後の方が特に違った。音の移り変わり方が伝わりやすい。</li> <li>・のびしが多くて、もったいぶった感じがする。</li> <li>・第1時のメンチメーターに出てない擬音語もたくさんあったけど、歌ってみると確かにそんなふうに聴こえるかもしれない。</li> <li>・本物の口唱歌の方が、旋律の上がり下がりにこだわりを感じる。</li> <li>・教える人によって、個性が出てきそう。</li> </ul> <p>・塩梅のある演奏と塩梅のない演奏を比較聴取し、知覚したことと感受したことを共有する。</p> <p>・口唱歌によって伝えられてきたことは、単に旋律やリズムだけではなく、</p>			

	<p>拍の揺らぎや塩梅による音高の変化、間合いなど、多岐に渡り、それが旋律の味わいにつながっていたことに気付かせる。</p> <p><b>振り返り</b></p> <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音源に合わせて口唱歌を歌い、体験したことを振り返りながら、課題についてグループで話し合う。</li> </ul>			
	<p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正確には無理だと思う。人によって、擬音語からイメージする音色も違うと思うから。</li> <li>正確とは言えないけど、大事にしたいところ、ポイントみたいな部分は伝わるのでは。</li> <li>実際に楽器の演奏と合わせて何度も聴くことで、頭の中には正確な旋律が覚えられそう。</li> </ul>			
	<p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p>【個人】</p> <p>○雅楽「越天楽」を鑑賞し、振り返りを踏まえ、題材を貫く問い『『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう?』について考えたことを書く。</p>	 <b>知</b> <small>(リ-グ-リ)</small>		
	<p>【生徒の記述例】</p> <p>口唱歌を体験してみると、音を口で伝えることはとても難しいということが分かった。「雅楽は1300年続いてきた」と言うけれど、今耳にしている音楽は1300年前のものとは違うんだろなあと思った。けれど、<u>微妙な旋律の塩梅</u>とか、<u>ためみたいな間</u>など、1300年前の人がこだわったり大切にしたりしたところは現代にもきちんと残っているのだとも思う。「雅楽」をはじめ、<u>伝えてきた人の息遣いや思いみたいなのが感じられる</u>ところが日本の伝統音楽のおもしろさなのではないかと思った。</p>			
3	<p><b>課題の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>雅楽「越天楽」とガムランを比較聴取し、それぞれの共通点・相違点を共有する。</li> </ul>			
	<p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どちらも「民族音楽！」って感じがする。</li> <li>雅楽には管楽器や弦楽器があるけど、ガムランは打楽器だけ。金属音がすごい。</li> <li>「越天楽」は速度がゆったりしていて「ノリ」がなく静か。ガムランはまとまりがあってリズムカルでにぎやか。</li> <li>静と動があるのは同じかもしれないけど、雅楽の方がまったりしている。</li> </ul>			
	<p>○「雅楽では、金属の打楽器（鉦鼓）はどのように生かされているのだろう」という課題を設定する。</p>			
	<p><b>情報の収集</b> ⇨ <b>整理・分析</b></p> <p>【グループ→全体】</p> <p>○雅楽「越天楽」の「リズム」が生み出す特徴を知覚・感受し、その関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に身近なもので鉦鼓を模擬演奏し、感想を共有する。</li> <li>音源に合わせて、楽譜通りの「チン、チチン」の場合とガムランのように打ち鳴らす「チキチキチキチキ…」の場合を、演奏する役と聞き役に分かれて体験し、それぞれの違いを共有する。</li> </ul>			
	<p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ずっと鉦鼓を打っていたらうるさいし、他の楽器の音色を邪魔しちゃう。</li> <li>チキチキすると、笙の和音や、箏の塩梅が主役じゃない感じになる。</li> <li>楽譜通りだと、時々聴こえる鉦鼓の音にハッとすることがある。</li> <li>楽譜通りにすると、何だか時を刻むような、区切りを示すような役割に聴こえる。</li> <li>楽譜通りに打とうとすると、周りの音楽をすごくよく聴く感じになってしまうから浸れる感じがする。</li> </ul>			

<p style="text-align: center;"><b>振り返り</b></p> <p>○雅楽「越天楽」の音楽を聴き、今日の学習を振り返りながら課題についてグループで話し合う。</p>			
<p><b>【生徒の発言例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉦鼓は音楽をつくる主役というより、流れを知らせる大事な脇役みたい。</li> <li>・ 鉦鼓がなかったら、しまりがない音楽に聴こえるんじゃないか。</li> <li>・ 鉦鼓があることで、ゆったりとしたテンポの音楽が前に進む感じになる。</li> <li>・ 音の数が少ない楽器が重なり合うことで、こういう雰囲気曲になっているのではないか。</li> </ul>			
<p style="text-align: center;"><b>まとめ・創造・表現</b></p> <p><b>【個人】</b></p> <p>○雅楽「越天楽」を鑑賞し、これまでの振り返りを踏まえ、題材を貫く問い「『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう？」について考えたことをまとめる。</p>		 <b>思</b> <small>(7-7-7-7)</small>	 <b>態</b> <small>(7-7-7-7)</small> <small>(観察)</small>
<p><b>【生徒の記述例】</b></p> <p>最初に聴いたときは、<u>ゆっくり過ぎて眠くなる音楽</u>だと思った。でも、授業で口唱歌を体験してみたら、<u>箏の音色の力強さ</u>や、<u>塩梅のような旋律のうねり</u>が心地よく聴こえるようになってきた。また、<u>ガムランみたいに、いつもみんなで同じリズムを演奏するわけじゃないのに、それぞれの楽器が伸びたり縮んだりする拍の中でうまいぐあいに重なり合って、一体感ある音楽</u>になっているのがおもしろいと思った。みんなが<u>お互いの息遣いを感じ合いながら、変化に合わせて自分の役割を果たす</u>ことでできあがるころは、<u>日本の社会の縮図</u>みたいと感じた。私たちが今聴いている雅楽「越天楽」は、1300年前のものとは違うものかもしれないけど、当時の日本人が大切に<u>した音や音楽へのこだわりが音楽の中に残っていて、それを想像しながら聴けるところが、雅楽から分かる日本の伝統音楽のおもしろさ</u>だと思う。</p>			
<p><b>【全体】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人でまとめた内容を共有し、雅楽「越天楽」を鑑賞する。</li> </ul>			

5 本時の学習

(1) 本時の目標

口唱歌を用いて他の人に音楽を伝える体験を通して、雅楽「越天楽」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。

(2) 観点別評価規準

雅楽「越天楽」の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。(知識・技能)

(3) 準備物

ワークシート、パソコン、モニター、クロムブック、イヤホン

(4) 学習過程

	学 習 活 動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する生徒への支援 (◆)	評価規準 (方法)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雅楽「越天楽」の冒頭を聴く。</li> <li>・ 雅楽「越天楽」の冒頭を聴き、「1300年も前からどうやって音楽を伝えてきたか」について考える。</li> </ul>	<p>◆自分の考えがもちにくい生徒には、他の生徒の発言に対してどう思うかについて考えさせ、発言を促す。</p>	
	<p><b>【生徒の発言例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書き残したと思う。      ・ 口で伝えたと思う。      ・ 一子相伝で引き継がれてきた。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽譜は覚え書き程度の役割しかもたず、口唱歌が伝承の大きな役割を担っ</li> </ul>		

	<p>ていたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1300年もの間、音楽を口唱歌で正確に伝えることは可能なのだろうか」という課題を設定する。</li> </ul> <p>(1) <b>本時のめあて</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書することで、授業を通して確認できるようにする。</li> </ul>	
<p>1300年もの間、音楽を口唱歌で正確に伝えることは可能なのか、体験を通して考えよう</p>			
<p>展 開</p>	<p>(2) <b>集団思考 1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて聴く箏の旋律を、自分たちの考えた口唱歌で、グループの最後の人まで伝えられるか試す。(10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のルールをモニタに示し、活動を通して確認できるようにする。</li> <li>◆聴こえたままの音を口唱歌にすることのイメージがもちにくい生徒には、第1時に行ったメンチメーターでの学習活動を思い起こさせてから取り組ませる。</li> </ul>	
	<p><b>【口唱歌伝言ゲームのルール】</b></p> <p>①グループで伝言する順番を決める。(1番目⇒2番目⇒3番目⇒4番目)</p> <p>②1番目の人は、雅楽「越天楽」(箏パート、5～8小節目)を聴き、口唱歌を考えて、次の人へ口頭で伝える。</p> <p>③2番目、3番目、4番目の人は、前の人から伝わったものを頼りに次の人に(4番目の人は1番目の人に)口唱歌で旋律を伝える。</p> <p>④1番目の人は、自分の考えた口唱歌をもう一度2番目の人に伝える。</p> <p>⑤再度、2番目、3番目、4番目(4番目の人は1番目の人に)と伝えていく。</p> <p>⑥全員で1番目の口唱歌を聴き、グループで感想を共有する。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に使用されている口唱歌の音源を聴き、自分たちの考えた口唱歌と比較した感想を共有する。(10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝言ゲームでの体験を基に気づきを交流させる。</li> <li>◆感想をもちにくい生徒には、自分たちの口唱歌との共通点や相違点、知覚したことと感受したことなどの視点別に考えさせる。</li> </ul>	
	<p><b>【生徒の発言例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが考えた口唱歌と最後の方が特に違った。音の移り変わり方が伝わりやすい。</li> <li>・のぼしが多くて、もったいぶった感じがする。</li> <li>・第1時のメンチメーターに出てない擬音語もたくさんあったけど、歌ってみると確かにそんなふうに聴こえるかもしれない。</li> <li>・本物の口唱歌の方が、旋律の上がり下がりこだわりを感じる。</li> <li>・教える人によって、個性が出てきそう。</li> </ul>		
<p>(3) <b>集団思考 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の、塩梅のある演奏と塩梅のない演奏を比較聴取し、知覚したことと感受したことを共有する。(10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩梅によって、旋律の味わいに変化が起きることに気付かせる。</li> <li>◆塩梅の有無による旋律の変化に気づきにくい生徒がいる場合は、伝言ゲームで考えた口唱歌を使って、塩梅のある演奏と塩梅のない演奏に合わせてグループで歌わせてみる。</li> <li>・口唱歌によって伝えられてきたことは、単に旋律やリズムだけではなく、拍の揺らぎや塩梅による音</li> </ul>		

		高の変化、間合いなど、多岐に渡り、それが旋律の味わいにつながっていたことに気付かせる。	
	<p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩梅のある演奏は、音がなめらかにつながって聴こえる。</li> <li>・塩梅がないと「楽器の音」って感じがするけど、塩梅があると「人の声」みたいに聴こえる。</li> <li>・確かに、塩梅がこんなにたくさん付けられているなら、口唱歌じゃないと伝えられない。</li> <li>・塩梅がある方が次の音までじらされるから、もったいぶった感じがする。</li> </ul>		
	<p>(4) <b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音源に合わせて口唱歌を歌い、課題について体験したことを振り返りながら、グループで話し合う。(7分)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・音源の口唱歌をモニタに表示する。</li> </ul>
	<p>【生徒の発言例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正確には無理だと思う。人によって、擬音語からイメージする音色も違うと思うから。</li> <li>・正確とは言えないけど、大事にしたいところ、ポイントみたいな部分は伝わるのでは。</li> <li>・実際に楽器の演奏と合わせて何度も聴くことで、頭の中には正確な旋律が覚えられそう。</li> </ul>		
ま と め	<p><b>書く活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雅楽「越天楽」を鑑賞し、振り返りを踏まえ、題材を貫く問い「『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう？」について考えたことを書く。(8分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時と第2時の学習を想起させるために、雅楽「越天楽」や口唱歌の音源データをドライブに共有し、必要に応じて生徒が自由に聴けるようにしておく。</li> <li>◆書きにくそうにしている生徒には、口唱歌の体験を通して考えたことから書き始めるよう声をかける。</li> </ul>	<p>○知識・技能</p> <p>B：雅楽「越天楽」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について、いろいろな楽器の音色の重なりや、箏の旋律が生み出す味わいを雅楽の特徴と捉えて記述している。</p> <p>A：Bに加えて、伝承過程での変化の可能性を音楽の多様性と結び付けて記述している。</p>
	<p>【生徒の記述例】</p> <p>口唱歌を体験してみると、音を口で伝えることはとても難しいということが分かった。「雅楽は1300年続いてきた」と言うけれど、今耳にしている音楽は1300年前のものとは違うんだろうなと思った。けれど、<u>微妙な旋律の塩梅</u>とか、<u>ためみみたいな間</u>など、1300年前の人がこだわったり大切にしていたところは現代にもきちんと残っているのだとも思う。「雅楽」をはじめ、<u>伝えてきた人の息遣いや思いみたいなのが感じられる</u>ところが日本の伝統音楽のおもしろさなのではないかと思った。</p>		

『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう？

組 番 ( )

1. 1時間目の課題について自分の考えをまとめよう！

--

「雅楽」はどんな音楽だと思いましたか。

--

質問があれば

♪先生からのコメント

--	--

2. 『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう？

1時間目と2時間目の学習を振り返って自分の今の考えをまとめよう！


「雅楽」には、どんなおもしろさ(特徴)がありましたか。

--

質問があれば

♪先生からのコメント

--	--

3. 結局、『雅楽』から分かる日本の伝統音楽のおもしろさって何だろう？

1～3時間目の学習を振り返って自分の考えをまとめよう！
